

未来ある子ども達のために



原町第一中学校 二年

佐藤 茅音



「もっとあしたはできるようにするからもうおねがいゆるして」

これは五歳の女の子が書き残したものです。

ある日、テレビで報道されていたニュースを見た私は、何か鋭いもので胸を突き刺さたような思いがしました。「低栄養状態」「肺炎」「敗血症」などといった、普段なら耳にしない数々の言葉が聞こえてきました。

そのニュースは、東京都に住む五歳の女の子が両親から虐待を受け、亡くなってしまったというものでした。テレビに映っていた無邪気に笑う女の子の笑顔は今でも私は、はつきり覚えています。あなたは、どこかで小さな子ども達が今、苦しんでいるという事を考えたことがありますか？私達が普通にいつもと変わらない生活を送っている中、女の子は懸命に助けを求めているのです。なぜなら、虐待を受け苦ししい思いをしていたからです。

私達がいつも笑顔あふれる生活を送ることができるのは、当たり前だと思っていました。しかし、私達のようにごく普通の生活を送ることができない小さな子ども達がいるのです。なぜ、このような悲しい出来事が繰り返しているのでしょうか。私には、心が痛み、考えてしまうのです。最近、テレビや新聞などでよく取り上げられている「虐待」について思うことは、そのような大人達は、「教育してただけだ」「しつけをしていただけだ」などといった理由で虐待をしている人が多いということです。

私は教育と虐待は「紙一重」だと思いません。なぜなら、初めは教育のつもりでもいつしか心ない行動に繋がってしまふと思つたからです。虐待を受けた五歳の女の子は毎朝四時頃起床し、平仮名の練習をさせられていたそうです。覚えてたの平仮名で言葉を書く時、女の子はどんな気持ちだったのでしょうか。

きつと、悲しく寂しかったことでしょう。それを考えると、可哀想だという気持ちばかりでなく、どうしてこんな小さな子どもが苦しまなければならぬのかという怒りも込み上げてきました。子どもは、大人が思っている以上に自分の両親のことが好きだと思います。

私は毎日、「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただ今」「お帰り」と母の声が返ってきます。食事の時も家族揃って会話をしながら、楽しい時間を過ごしています。皆さんは、それがどんなに特別な事か考えた事がありますか？しかし、虐待を受けている子ども達はそうではありません。そんな生活は夢のようだと感じるでしょう。子どもは、たとえ親からひどい目にあわされていたとしても、たった一人の自分の親ですから「嫌いだ」「会いたくない」とは思わないはず。そのような状況下の子ども達の大半は、「家族みんな仲良くしたい」「みんなと同じように元気に過ごしたい」と思っているそうです。そんな子ども達の小さな願いを私達が叶えてあげることができないのでしょうか。子どもが密かに思っていることも考えずに自分の都合や身勝手さだけで虐待をしているということは、あつてはならないと思います。未来ある子ども達のことを大人が傷つけてもよいのでしょうか。どうして親として優しく見守ってあげることができないのでしょうか。

私は将来、困っている子ども達に手を差しのべ守ってあげられるような職業に就きたいと思っています。これ以上、悲しい出来事が起こるのはもう嫌です。苦しんでいる子ども達にも私達と同じように普通の生活ができればいいなと

思います。私も大人になりいつか母親になると思います。親と子の深いつながりで大人達に守られながら幸せな生活を送ることができるようになり、そして笑顔と笑い声のあふれる社会であつてほしいです。小さな力ではあるけれど私は、少しでも辛い思いをしている子ども達を、救ってあげたいのです。



発表者コメント

未来ある子ども達が今、虐待によって苦しみ、平穏な生活を送ることができないという現実をみなさんと考えていきたいです。